

おはようございます。中間テストは続々と戻ってきましたね
結果云々よりも、しっかりと見なおして次に同じような問題がでたらできる
ようにするのが大切です。

あとひと月で期末テストがありますので、今回の反省をしっかりと生かしてく
ださい。

6月になりました。部活動も3年生と一緒にできるのはあと少しとなりました
。対戦トーナメントも出ましたので、頑張ってくださいね。

今日は、この図にまつわるお話をしていきたいと思っています。言葉だけよ
り画像もあるとわかりやすいと思うので、今日はオンラインでの講話朝会
です。

一番上は、ジェノサイド・・・意味は、民族、人種、民族を破壊する意図を
もって行われる行為。戦争などで大量虐殺なども含まれます。

歴史的にも有名なのは、第二次世界大戦のとき、ナチ・ドイツおよび占領下
のヨーロッパで、「ユダヤ人」という理由で約600万人の人々が殺されまし
た。その内、約150万人が15歳以下の子供でした。

70年以上の前の話ですが、今も戦争や内紛などで、毎日のように命を落と
す危険な国々があります。(中略)

では、この嫌な言葉がたくさん並んでいるピラミッドですが、これを下支え
しているマイクロアグレッションということを紹介していきたいと思ってい
ます。

マイクロアグレッションとは、直訳するとマイクロが小さな、とか、ささい
なという意味。アグレッションというのは攻撃 という意味です

今から挙げる言葉にも、マイクロアグレッションが隠れていると言われてい
ます。どんなところが問題なのでしょうか？

一見、ほめているように感じませんか？ほめられてうれしく思う人もいるか
もしれませんね。

例：

1つ目の女の人は母性的であるべき→母性的でない人は女性ではない

2つ目は男の子はさっぱりしている→女の子はさっぱりしていない？という
決めつけのメッセージ

この2つはマイクロアグレッションの典型ともいえる例です。性別（ジェン
ダー）という自分ではどうにもできないことへの決めつけ、押しつけにしばら
れたくはないですね。

3つめの新入社員なのにすごい→新入社員にはできるはずがないという決め
つけ

4つ目は日本語お上手ですね・・・は悪意から発したのではないと思いま
す。しかし、そういわれた人がどうとるか？がポイントです。

自分の中に根付いている偏見や優越感も入っていると取られてしまうこともあるということも知っておいてほしいです。

本当に流暢に話せる人や、小さい時からずっと日本で育っている人に言ったら、「はあ、どうも」（え？何、普通だけど？）という反応を見ることもあるかもしれませんね。

私は、「英語が上手ですね。」と言われたら、素直に喜んでしまいますが。

だしぶ、そんなつもりじゃないけど、もしかしたらそう取られてしまうかも？というものがわかってきましたか？

例

1つ目： 俳句が趣味だなんて、日本人より日本人らしいね →日本人でも難しいのに本当にわかるの？や、本当に理解できるのは日本人だけだ。といった自分の民族とは異なる他者に対して優越感をもつ態度のにおいがします。

2つ目：あなたはマナーがよくて日本人みたいですね。→これも同じように、自文化中心主義ですね。

ポイントは相手を傷つける意図があるかないかではなく、傷つけようとしていない、むしろ褒めようとして行われることもあるということです。意図がなくても相手に細い針でチクッと刺したような痛み（ダメージ）を与える行為と言えるでしょう。

例

1つ目 この前、買い物に行ったら、A人（外国籍）がいて、大きな声でしゃべっていてすごくうるさかったんだよね

2つ目 この前、買い物に行ったら、B人（外国籍）と会ったんだけど、礼儀正しくて驚いたよ

これを比べてみたら、A人とB人へのマイクロアグレッションという意味では同じです。

ちなみに、どちらも「同じ国の人」として読み替えてみてください。

もしくは、A人、B人を「石南生」として読み替えてみてもわかりやすいかもしれません。

どうでしょう？

それぞれが個人ではなく、見た目や国籍などのイメージで決めつけられているのがわかると思います。（中略）

例 男子生徒は全員丸刈り

こんな校則が昔は日本全国にありました。今では考えられないような校則ですね。

少しずつではありますが、多くの人がそのおかしさに気づき、声をあげることによって変わっていきました。

大事なことは何より学ぶこと。他者の意見に耳を傾けること。

昨日までの常識が、非常識に変わることもあるし、自分が抱いている普通やあたりまえ という感覚をいつも

見直していく必要があると思います。

日本人は、国際的な視野にたって考えるのがとても苦手だと言われていま

す。なぜならば、日本語というごく限られた人しかしゃべれない言語だから。

世界中の正確な情報が入ってこないのが現状。入ってきてもとても偏りがあります。

漫画家の星野ルネさんが出版したアフリカ少年が日本で育った結果という本をご存じでしょうか？

ルネさんは、フランス語しかしゃべれなかった幼稚園の頃、お母さんの再婚でアフリカのカメルーンから日本にやってきました。

幼稚園時代から日本の教育システムの中で育ったルネさんが、両国の違いなどをわかりやすく漫画で描いています。インターネットでもたくさん配信してくれているので是非調べてみてください。

黒人＝足が速い 外国人なら英語を話すでしょ？などという、日本人が外国人に対して持っている偏見がもたらすルネ少年が困ったことやおもしろく思ったことが漫画でわかりやすく語られています。

職員室前の本棚に置いておきますので、是非読んでみてください。

いろいろな例を出しましたが、自分の価値観だけで言葉を発するのではなく、いろいろな人の背景にあることを考えて言葉を発することができると、さらに人間関係がよくなります。自分も生きやすくなります。

自律を重んじる石南生には、自分の発した言葉が、どういう意味を含むのか？をしっかりと気づける人になってほしいと思っています。気づかない人がいたら、やんわりと教えてあげてほしいです。

これで今日のお話を終わります。

以上です。

校長 大木まみこ

参考

<https://www.nippon-foundation.or.jp/journal/2023/89893/education> 日本財団 HP より

・マイクロアグレッションを吹っ飛ばせ 渡辺 雅之

・「アフリカ少年が日本で育った結果」より「身体能力神話」 星野ルネ